

16（令和2年度展示栽培）雪中貯蔵可能品目における貯蔵法の展示

背景と目的

近年、ダイコン等を雪中貯蔵し冬季に出荷する手法について生産者から問い合わせが多いことから、これまで未確認である品目や貯蔵法を中心に当地での導入可否を検討しました。

※十分な調査数による結果ではないため、一事例として参考までに御覧ください。

展示品目

品目	栽培・貯蔵方法
長ネギ	①土寄せを行う慣行方法で栽培し、収穫せずにそのまま積雪下にしました。 ②穴底植え※で栽培し、収穫せずにそのまま積雪下にしました。
ダイコン	①根雪前に収穫し、トレンチ（溝）内に立て、ゴザをかぶせ積雪下にしました。（以下「トレンチ貯蔵」といいます。） ②根雪前に収穫し、地面に寝かせた上に土をかぶせ積雪下にしました。（以下「寝かせ貯蔵」といいます。）
ハクサイ	①トレンチ貯蔵 ②寝かせ貯蔵

※穴底植え：マルチ使用の高畝に、穴径3cm、深さ30cmの穴を開け、苗を落としその後は放任しました（現代農業2007.12月号）。本栽培では、径3cmの検土杖で穴開けしました（図）。



図 穴底植えに用いた検土杖

1 長ネギ

（1）供試品種：‘なべちゃんゴールド’（トキタ種苗株）, ‘元蔵’（固定種）

（2）穴底植え栽培の耕種概要（慣行栽培については割愛します。）

- ・播種：令和2年4月30日，定植：6月26日（200穴セルトレイで30～40cmに育苗）
- ・栽植密度：株間15cm，条間20cm，畝間120cm，1,667本/a
- ・エコロング250（100日タイプ）N:P:K=1.0:0.3:0.5(kg/a)
- ・培土，追肥：なし

（3）収穫調査日：令和2年11月25日，12月23日，令和3年1月25日

（4）結果（表1），考察

慣行栽培では，12月時点で土が凍り収穫できませんでしたが，穴底植え栽培の‘なべちゃんゴールド’は，12月以降も収穫可能でした。一方，‘元蔵’は，収穫の引き抜きが困難で，葉鞘部でちぎれる株が多く，同栽培法には不向きでした。

穴底植え栽培の‘なべちゃんゴールド’は，一般的な軟白ネギに比べ，葉鞘径が太く，軟白長が短い「太ネギ」と呼べる品質のネギができました。積雪後は緑の葉身部を短く切り，軟白部を2月に市内直売所に出荷しました。

以上から，品種は選びますが，貯蔵法としては当地でも有望と思われました。

表1 穴底植え栽培‘なべちゃんゴールド’の月別調査結果

調査月	一本重 (g)	葉鞘径 (mm)	軟白長 (cm)	分岐長 (cm)	葉数 (枚)	糖度 (Brix%)
11月	387	37	24	27	5.0	9.6
12月	457	35	22	29	6.0	9.0
1月	308	29	22	29	3.5	4.8

2 ダイコン、ハクサイ

(1) 供試品種：ダイコン‘YR味づくり’（丸種株）, ‘耐病総太り’（タキイ種苗株）

ハクサイ‘冬の祭典’（株渡辺採種場）, ‘晴黄75’（タキイ種苗株）

(2) 耕種概要：貯蔵前の栽培は一般的な方法なので、紙面の都合上割愛します。

(3) 貯蔵、調査の各作業日程

	収穫・貯蔵日	掘り出し・調査日
トレンチ貯蔵	令和2年11月5日	令和2年12月16日、令和3年1月18日
寝かせ貯蔵	令和2年11月6日	令和2年12月22日、令和3年1月21日

(4) 結果（表2）、考察

ダイコン、ハクサイとも、貯蔵法にかかわらず12月調査日までは品質の劣化がなく貯蔵できました。

1月調査では、ダイコンは貯蔵法にかかわらず外部の劣化が見られたことから、出荷は12月までに行うことが無難と思われました。その際は、貯蔵作業が容易な寝かせ貯蔵を選択するのも良いと思います。一方、ハクサイは、円筒型で頭頂部を結束できた‘冬の祭典’の貯蔵性が高く、1月調査日まで品質が良好だったことから、長期貯蔵の場合は、頭頂部を結束できる品種のトレンチ貯蔵をお勧めします。

表2 ダイコン、ハクサイの貯蔵法別、月別の品質の概要

品目	貯蔵法	月別の品質	
		12月	1月
ダイコン	トレンチ貯蔵	内部、外部とも品質良好	・内部品質は良好
	寝かせ貯蔵		・外皮のシミや汚れが発生
ハクサイ	トレンチ貯蔵	内部、外部とも品質良好	頭頂部を結束すると、内部、外部とも品質良好
	寝かせ貯蔵		腐敗や内部凍結などが発生



‘なべちゃんゴールド’



‘YR味づくり’



‘冬の祭典’